

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1998年(平成10年)9月5日 No.1101

## 目次

1998年1～6月の日ロ貿易	1
キーパーソン	8
CIS諸国通貨の最新為替レート	8

## 1998年1～6月の日ロ貿易 はじめに

今回の速報では、大蔵省発表の通関実績にもとづき、1998年1～6月の日本とロシアの貿易データをお伝えする。

1998年1～6月の日ロ貿易は、輸出額が前年同期比61.5%増と大幅に伸び、輸入額は22.0%減と振るわなかった。貿易額は2,547億1,000万円(19億4,329万2,000ドル)で、うち輸出が795億2,100万円(6億638万1,000ドル)、輸入が1,751億8,900万円(13億3,691万1,000ドル)だった。輸入超過に変化はないものの、その差は大きく縮まった。

輸出は円安が額を大きくした面があるが、ドルベースでも48.3%増で、ここ数年の低迷から明るい兆しが見えはじめた。とくに機械機器が83.4%増で、増加の牽引役を果たしている。増加の背景には大手商社のOWNファイナンスによる契約が実行されたこと、さらに日本輸出入銀行や政府貿易保険による大型契約が発効したことなどがある。

輸入は国内需要の低迷と国際石油価格の下落で、木材が50.5%、重油が43.6%と大きく減少した。対ロシア輸入のなかで大きな比重を占める魚介類は数量、金額とも減少した。

日ロの貿易関係は、輸出は1997年に合意された橋本—エリツィン・プランの効力はまだ現れてないものの、それ以前に取り決められた契約が動き出すなど今後も一層の拡大が期待される。一方、輸入は国内の景気や石油価格の下落といった外的要因に左右される状況が続くと予想される。

品目別にみると、輸出額が増えた主な商品は、金属加工機械が約19倍、荷役機械が約6倍、一般機械が151.5%増、建設・鉱山用機械が93.5%増、自動車が87.6%増加した。